

大型案件の受注拡大と 品質向上という課題を

人手から機械への転換で

一挙に解決

かつての不況によってその数を減らしていた鉄骨加工業者は、景気回復や震災復興の特需により多忙を極めていました。同社においても同様の状況で受注を逃す機会もあったのですが、ある機械の導入がその状況を一変させました。



代表取締役

富永 豊和
とみなが とよかず

ショットブラスト機にセッティングされた加工物。研磨剤を投射することで表面の錆や不純物が落ちてきれになります。



ものづくりへの想い

自分たちがつくった建物が残ることがこの仕事の醍醐味です。鹿児島のいづろ通りのアーケードの一部は私たちがつくったのですが、子どもにも現地でしっかり自慢しました（笑）

今後の展望

ショットブラストの後にも積極的に設備更新をしたことによって、当初の見込みより売上があがっています。今後も積極的な営業を重ねて事業拡大に努めていきます。

ショットブラスト処理されることで塗装の仕上がりが格段に美しくなりました。



ショットブラスト処理後の表面。これまで別工程だった錆落としと、表面をザラザラにする摩擦面処理を同時に行えます。

事業拡大を実現させた ショットブラストの 導入。

同 社がものづくり補助金を活用して『H型鋼用ショットブラスト』を導入した平成26年当時、日本の景気はいわゆる「アベノミクス」によって回復基調にあり、鉄骨加工業界は非常に忙しい状況が続いていました。さらに、震災復興の設備投資や来たる東京オリンピックにより関東方面からの需要増加が見込まれており、これを事業拡大の好機と捉えた同社は積極的に営業展開することをもくろんだのです。

ただ、そのためにはクリアしなくてはならない課題がありました。

「大

型案件の場合、H鋼（骨組みの材料）が港で陸

揚げられて、そこから工場まで運んでくるのですが、工期の関係でしばらく港に保管しておくとその間に錆びてしまうんです。その錆落としを人手で行っていたのですが、8メートルのH鋼1本を処理するのに2人がかりで50分かかっていてボトルネックとなっていたんです。大型案件を受注拡大していくためにはなんとしてもここを解決する必要がありますがありました」（富永社長）

そこで同社が導入したのが錆落としと摩擦面の処理を自動でできる『H型鋼用ショットブラスト』です。その効果はてきめんで1時間で処理できる数が5倍にアップ。工程の大幅な短縮とコストダウンにつながったのです。

「人手から機械処理にシフトしたことで処理品質も格段に向上し、富永さんはいい仕事をする」とお客さんに言われるようになった。ショットブラストによって得られたお客さんからの信頼は、今日の当社にとってかけがえのないものですよ」

case
05

鋼構造物工事・建築工事業

株式会社 富永鋼建

設立：1983年

代表取締役：富永 豊和

資本金：1,000万円

従業員：19名

事業内容：鉄骨建築物を主に、鉄骨製作図作成、一時加工、塗装、検査、建築を行う。

〒880-2323

宮崎県宮崎市

高岡町浦之名4759番地3

TEL.0985-30-0177

FAX.0985-30-0188

ものづくり
補助金活用
ココが
ポイント！



大幅な時間短縮とコストカットに貢献

作業能力が
約5倍に！

長さ8メートルのH鋼の加工を1日約10本しかできなかったのが、48本も加工できるように。長時間作業による身体的負担も大きく軽減するとともに作業環境も改善されました。

